

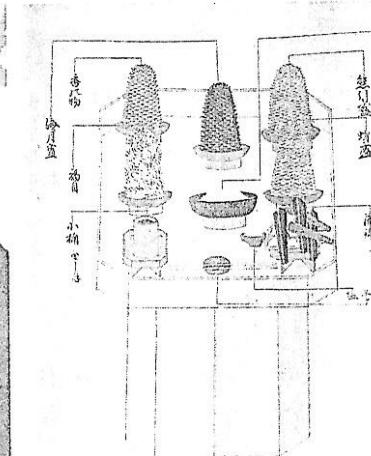
〔第3種郵便物認可〕

2008年(平成20年)3月6日(木)



絵巻物を見る合田寅彦さん(奥)といとこの洋一さん
=鞆の浦歴史民俗資料館で

朝鮮通信使は、豊臣秀吉の朝鮮出兵で悪化した関係修復などそのため、日本に派遣された外交使節団。1607年から1811年に計12回来日した。



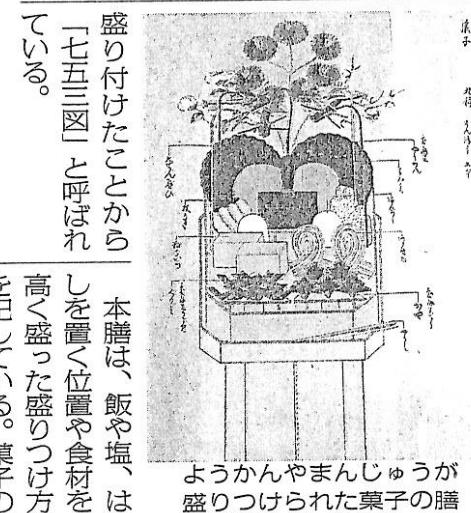
食材を高く盛りつけた本膳

絵巻物は、最後の通信使を長崎県対馬で受け入れる前年の1810(文化7)年に描かれた。長さ約36センチ。総30チゼン。通信使を歓迎

公開は23日まで。問
い合わせは鞆の浦歴史
民俗資料館(084-9002-1121)。

朝鮮通信使をもてなした料理を示す絵巻物「七五三図」の展示が5日、福山市鞆町の接待役を務めた小倉藩小笠原家の文書で、タイの刺し身やお菓子の盛り合わせなど料理の絵と説明が詳細に記されている。一般公開は初めてといふ。通信使研究の貴重な資料として注目される。

【重石由史】



盛り付けたことから
「七五三図」と呼ばれている。

本膳は、飯や塙、はしを置く位置や食材を高め盛った盛りつけ方を記していく。菓子の膳はカステラやまんじゅう、ようかんの記載がある。奥書には、接待に万金を期すため、同じお膳を作つて事前に予行練習を行つたことも書かれており、朝鮮通信使に詳しい梅花女子短大の高正晴子教

初の公開 献立の絵 詳細に

朝鮮通信使料理で歓待

23日まで鞆の浦歴史民俗資料館

絵巻物の所有者はNPO法人理事長、合田寅彦さん(69)=茨城県石岡市。明治維新後の函館戦争の際、小笠原家の一族が、北海道で酒造業を営んでいた合田家に託して

いる。ものが伝わったとい

う。合田さんは「家宝として大切に保管してきた。朝鮮通信使のゆかりの地である鞆の浦で、初めて多くの人に見えてもらいたいのは大変光栄なこと」と話した。